

速報

新中 3 生必見!!

令和 6 年度

# 新潟県公立高校入試 問題分析



令和 6 年度の受験生が  
受験した 2023 年度新潟県  
統一模試で類似問題が多数  
出題されていました!!

速報としてご紹介するのは、  
類似問題の一例です。

# 古文の問題で同様の形式が出題されました。

## 公立高校入試 大問三

三 次のAの文章は、『今昔物語集』の「藤原資業作詩義忠難語第二十九」の前半の内容を現代語でまとめたものであり、Bの文章は、Aに続く部分の古文である。この二つの文章を読んで(一)～(六)の問いに答えなさい。

A 昔、藤原資業という文章博士が、達人たちに屏風に書く漢詩を作らせた。学才豊かで、漢詩に精通していた民部卿大納言が、天皇の命令を受けてこれらの漢詩を選定したところ、資業のものが数多く採用された。このことを藤原義忠という文章博士がねたみ、「資業の作った漢詩は難点が多いにもかかわらず、数多く採用されています。思うに民部卿は資業から金品を受け取って採用したのです。」と宇治殿に訴えた。

古文

古文本文

現代語解説

問題文

## 新潟県統一模試 二〇二三年度二回大問三

次の文章は、「今昔物語」におさめられている話である。Aの文章は、話の前半のあらすじであり、Bの文章は、Aに続く内容の古文である。これらの文章を読んで(一)～(六)の問いに答えなさい。

A 昔、池の尾というところに、禅智内供という僧が住んでいた。熱心な修行をしていたので、寺は栄え多くの弟子が集まった。この内供は、他の人にはみられないほど鼻が長く、実に五、六寸もあったので、あごの先から下がって見えるほどだった。食事には鼻が邪魔になるので、ある一人の弟子の法師に、木の板を鼻の下に差し入れて上に持ち上げさせ、粥などをすすっていた。他の法師では鼻の持ち上げ方が下手なので、内供は機嫌をそこねて食事をしようとしなかった。(以下省略)

B  
童<sup>わらわ</sup>鼻<sup>はな</sup>持ち<sup>もち</sup>上げ<sup>あげ</sup>の木<sup>き</sup>を取り<sup>と</sup>りて、直<sup>ただ</sup>しく向<sup>むか</sup>ひ、よき程<sup>ほど</sup>に高く<sup>たかく</sup>持ち<sup>もち</sup>上げて、粥<sup>かゆ</sup>を<sup>を</sup>すす<sup>すす</sup>らせぬれば、内<sup>うち</sup>供<sup>くわ</sup>、「この童<sup>わらわ</sup>はいみじき<sup>い</sup>上手<sup>じょうず</sup>にこそあり<sup>あり</sup>けれ。例<sup>れい</sup>の法師<sup>ほうし</sup>にはまさ<sup>まさ</sup>りたり<sup>たり</sup>けり」と云<sup>い</sup>ひて、粥<sup>かゆ</sup>を<sup>を</sup>すす<sup>すす</sup>する程<sup>ほど</sup>に、童<sup>わらわ</sup>、顔<sup>かほ</sup>を<sup>を</sup>傍<sup>そば</sup>様<sup>さま</sup>に向<sup>むか</sup>けて、鼻<sup>はな</sup>を<sup>を</sup>大<sup>おほ</sup>きな

(以下省略)

入試問題〔三〕古文の問題は、『今昔物語集』から出題されました。今年度は現代語で書かれたあらすじ(文章A)とそれに続く古文(文章B)を読んで解答する問題でした。模試では、第二回模試が入試同様の現代語によるあらすじ(文章A)と古文(文章B)の構成で、出題された文章も『今昔物語』の一部でした。



**関数の利用の問題**で類似問題が出題されました。

## 公立高校入試 大問4

図3の状態から、左の引き戸だけを右向きに動かす。図4~6は、左の引き戸を右向きに動かしたときのようすを順に表したものであり、2枚の引き戸を正面から見たときに見える「奥の面」を、A~Dのように分類する。

左の引き戸を、図3の位置から右向きに動かした長さを $x$ cmとするときあとの(1)~(5)の問いに答えなさい。ただし、 $0 \leq x \leq 70$ とする。

図は、新聞などをご確認ください。

## 新潟県統一模試 2023年度4回大問5

図1の図形を、図2のように、9cmの辺どうしを重ねて直線 $\ell$ 上に並べます。そして、図形Qを固定し、図形Pを、直線 $\ell$ に沿って、矢印の向きに動かします。図形Pを $x$ cm動かしたときの、2つの図形が重なった部分の面積を $y$ cm<sup>2</sup>として、 $x$ と $y$ の関係を考えてみましょう。

図1

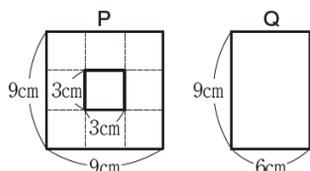


図2

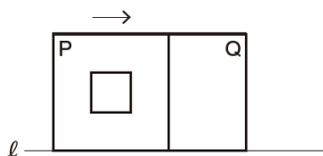


図3

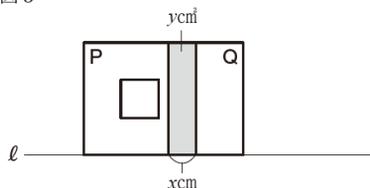
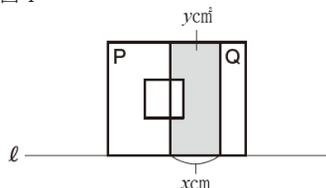


図4



入試問題〔4〕は関数の利用の問題で、引き戸を動かすときに見える奥の面の面積の変化を問う問題でした。この問題は、新潟県統一模試第4回の〔5〕で出題した問題と考えの進め方が同じものとなっていました。

どちらも移動する図形を考えさせて、 $x$ cm進んだときの面積を正確にとらえて、各々の場合の $x$ と $y$ の関係式を立て、グラフを作成するという、両者で似た出題形式となっていました。



例年同様の出題形式。

**入試の出題形式への対応力がポイントです。**

## 公立高校入試 大問3(1)

(1) 文中のA, Dの□の中の語を, それぞれ正しい順序に並び替えて書きなさい。

Emma: I'm looking for my bag. Do you.  ?  
A

Kaori: Yes, I do. I have  to show you.  
D

## 新潟県統一模試

### 第9回大問3 (1) E

(1) 文中のA, Eの  の中の語を, それぞれ正しい順序に並び替えて書きなさい。

He  goals.  
A

I  .  
E

### 第7回大問2 (3) C

(3) 文中のC, Fの  の中の語 (句) を, それぞれ正しい順序に並び替えて書きなさい。

She makes it  in her fields.  
C

Some companies in this town  the Edo period.  
F



こちらの例は語順整序の問題です。間接疑問文、関係代名詞といった比較的難易度の高い英文法が出題されました。並び替える語数はそれほど多くはなかったので、英文法をしっかり理解してきた受験生であれば解けたでしょう。

**地理 歴史 公民**各分野で類似問題が出題されました。

## 公立高校入試 大問3

〔3〕 次のA~Dは、それぞれ、奈良時代から江戸時代の間、ある時代につくられた短歌である。これらの短歌について、下の(1)~(6)の問いに答えなさい。

- A. 人も愛し 人も恨めし あぢきなく 世を思ふゆゑに もの思ふ身は (後鳥羽上皇)
- B. この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば (藤原道長)
- C. 天皇の 御代栄えむと 東なる陸奥山に 金花咲く (大伴家持)
- D. 白河の 清きに魚の すみかねて もとの濁りの 田沼恋しき (作者不明)

Dの短歌について、田沼意次の後に老中となり、この短歌で「白河」と詠まれている人物は誰か。この人物の名前を書きなさい。

## 新潟県統一模試 2023年度7回大問3(4)

(4)D班のカードの松平定信が行った改革を何というか、書きなさい。また、その政策が反感を買った主な理由を、右に示した当時の狂歌にこめられた風刺に関連づけ、「出版物」という語句を用いて書きなさい。

D班 松平定信



18世紀後半に幕府の老中となり、政治改革を行ったが、その政策は人々の反感を買った。

白河の清きに魚の住みかねて 元のにごりの田沼こひしき

大意：清らかに澄んだ川は魚にとっては住みにくく、にごった田や沼が恋しくなるほどだ。

(注) 「白河」には白河藩主であった松平定信、「田沼」には賄賂の横行などの政治の乱れをまねいた田沼意次がかけられている。



類似問題の一例は歴史の問題です。

江戸時代の人物に関する問題が、新潟県統一模試第7回問題と類似していました。有名な和歌と合わせて歴史上の人物を覚えているかを問う問題でした。

を問う問題でした。

## 大問〔8〕他、類似問題が多数出題。

## 公立高校入試 大問8

ある年の7月20日午後9時頃に、日本のある場所で、北の空と南の空を観察したところ、北の空には、図1のようにカシオペア座が、南の空には、図2のようにさそり座が、それぞれ見えた。また、図3は、太陽地球および、さそり座の位置関係を模式的に表したものである。このことに関して、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) 図1, 2について、この日の午後9時から30分程度、同じ場所で観察を続けると、カシオペア座とさそり座は、時間の経過とともに、それぞれその位置を変えた。

図は、新聞などをご確認ください。

- ② 次の文は、カシオペア座とさそり座が、時間の経過とともに、それぞれその位置を変える理由を説明したものである。次の文中のX, Yに当てはまる語句の組合せとして最も適当なものを下のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

地球がXへYしているため。

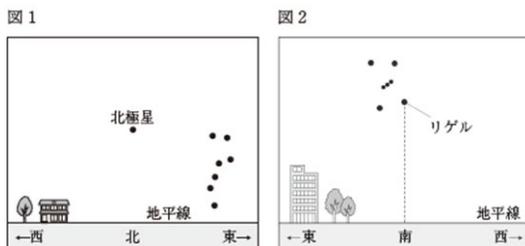
ア〔X 東から西、Y 公転〕 イ〔X 東から西Y 自転〕 ウ〔X 西から東、Y 公転〕 エ〔X 西から東、Y 自転〕

- (2) この年の8月4日に同じ場所で、南の空を観察するときさそり座が図2と同じ位置に見られるおおよその時刻として、最も適当なものを次のア～オから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア午後8時頃 イ午後8時30分頃 ウ午後9時頃 エ午後9時30分頃 オ午後10時頃

## 新潟県統一模試 2023年度9回大問4

研二さんは、星の動きを調べるため、北緯 $35^\circ$ のある地点で、ある日の午後9時における北斗七星とオリオン座の位置の観測を行った。図1は観測した日の午後9時の北の空のようす、図2は同じ日の午後9時の南の空のようすであり、オリオン座をつくるリゲルという恒星が真南に見られた。この日から、同じ時刻に同じ地点で北斗七星とオリオン座の位置の観測を続けた。



- (2) 観測から、同じ時刻に見える北斗七星やオリオン座の位置は、日がたつにつれて変化することがわかった。このように、日がたつにつれて天体が動いて見えるのはなぜか。書きなさい。

- (3) 最初に観測を行った日からちょうど1か月後にリゲルが真南に見える時刻として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 午後7時頃 イ 午後8時頃 ウ 午後10時頃 エ 午後11時頃



入試問題〔8〕は天体の問題で北の空と南の空に見える星座が時間の経過とともにどのような位置に見るかという問題でした。当会模試第9回の〔4〕で、観察する星座は違いますが、考え方は同じ問題

の出題となっていました。